



(地力増進法に基づく表示)

土壌改良材の名称：炭の花 F

土壌改良材の種類：木炭（国産木材由来）

正味量：1 L

単位容積質量：1 L あたり約 0.35kg

用途（主なる効果）：土壌の透水性の改善

施用方法：（標準的な施用量）この土壌改良材の標準的な施用量は土壌に対して5～10%混合してご使用ください。

施用上の注意：地表面に露出すると風雨などにより流出することがあり、また、土壌中に層を形成すると効果が認められないことがありますので、十分土と混和してください。本品は粉炭を含むため、使用時に手や容器が黒く汚れる場合があります。作業の際は手袋の着用をおすすめします。手や容器に付着した場合はすぐに水で洗い流してください。

野菜も花も元気に育つ、ふかふかの土づくりに

「最近、野菜の育ちが悪い」

「水やりをしてもすぐ乾く」

「土が固くなってきた」

そんなお悩みに。

炭の花は、炭・腐植・フルボ酸の力で土壤環境を整え、植物が元気に育つ土づくりをサポートする土壤改良材です。

こんな方におすすめ

- ✓ 家庭菜園でおいしい野菜を育てたい
- ✓ 花を長く元気に楽しみたい
- ✓ 水やりの手間を減らしたい
- ✓ 固くなった土を改善したい

(炭の花 4 つの特長)

① 土をふかふかに

土の通気性を高め、根が伸びやすい環境づくりをサポートします。

② 水持ち・肥料持ちアップ

水分や養分を保持しやすくなり、植物の健やかな成長を支えます。

③ 土壤環境を整える

腐植とフルボ酸が土壌を健全な状態へ導きます。

④ 水やりの負担を軽減

保水力が向上し、水切れしにくい土づくりに役立ちます。

おすすめの植物

レタス・コマツナ・ホウレンソウ・ベビーリーフ・バジル

ミニトマト・ペチュニア・ラベンダー・ゼラニウム・マリーゴールド・ガーベラなど

(使用方法)

培養土または既存の土に対して、本品を約5～10%混ぜてご使用ください。

目安：幅50～60cmプランター（10～20L）に対して1袋

5号鉢（直径15cm程度）：1/10～1/5袋、6号鉢（直径18cm程度）：1/6～1/3袋

7号鉢（直径21cm程度）：1/4～1/2袋、8号鉢（直径24cm程度）：1/2～4/5袋

10号鉢（直径30cm程度）：1袋

本品は肥料ではないので、別途肥料が必要です

(使用例)

サニーレタス

炭の花Fを使用すると収穫量が約2倍になりました。

培養土に炭の花Fを10%混合して栽培しました。（肥料は化成肥料を使用しました）



※事例の数値は、実測値であり保証値ではございません。

バジル

培養土に炭の花 F を 10%混合して栽培しました。

鮮やかな葉色と力強い生育が見られました。炭の持つ通気性・保水性向上効果により、植物が育ちやすい土づくりをサポートします。

(肥料は化成肥料+有機肥料を使用しました)



ミニトマト

培養土に炭の花 F を 10%混合して栽培しました。

赤く色づいた実が収穫間近となり、上部にもたくさんの実がつき、順調な生育が確認できました。(肥料は化成肥料+有機肥料を使用しました)



ペチュニア

培養土に炭の花 F を 10%混合して栽培しました。

鮮やかなピンク色の花が次々と開花し、葉色も濃く健康的に生育しました。株全体のまとまりも良く、花付きの良さが確認できました。

(肥料は化成肥料+有機肥料を使用しました)



ガーベラ

培養土に炭の花 F を 10%混合して栽培しました。

やわらかな黄色の花が美しく開花し、葉も大きく濃い緑色で健全に生育しました。つぼみも確認でき、今後も継続的な開花が期待されます。

(肥料は化成肥料+有機肥料を使用しました)



試験結果

バジルを用いて、水やり頻度の違いによる生育状況を比較しました。培養土には炭の花 F を 10% 混合し、肥料は有機肥料を施肥して栽培しました。

その結果、「炭の花 F」添加区は水やり頻度を減らしても生育が良好で、葉の大きさや株の勢いが維持される傾向が確認されました。一方、一般的な炭（くん炭）添加区では、水やり回数を減らすと生育が鈍化し、葉数や草丈に差が見られました。

これは、「炭の花 F」が土壌中の水分を適度に保持しながら、根に必要な空気も確保することで、植物が乾燥ストレスを受けにくくなったためと考えられます。また、多孔質構造により根の張りが良くなり、水や養分の利用効率が向上した可能性があります。

「炭の花 F」は水やりの手間を減らしながら植物を元気に育てる効果が期待できます。

忙しくて毎日水やりができない方や、夏場の水切れが心配な方にもおすすめです。家庭菜園やプランター栽培に使用することで、植物の生育向上と管理の省力化の両立が期待できます。

